

ワシン Non-TX ウレタン  
サンディングシーラー

---

仕 様 書

---

和信化学工業株式会社

---

木工塗料事業部

---

平成 年 月 日

---

# ワシン Non-TX ウレタン サンディングシーラー

(非トルエン・キシレン塗料)

本品は、塗料中にトルエン、キシレン等のPRTR対象物質を含まない環境を配慮した溶剤系2液ウレタン塗料です。  
低粘度でありながら、肉持ち・研磨性に優れた2液ウレタン仕上げ用中塗り塗料です。

## § ホルムアルデヒド放散等級

F (日本塗料工業会登録 W01004)

## § 特 長

1. 塗料中にPRTR対象物質が含まれていない。
2. 主剤と硬化剤の混合が1:1なので調合しやすい。
3. 低粘度高不揮発分タイプで、肉持ち性が良好。
4. 塗装作業性、レベリング、消泡性が良好。
5. 研磨作業性に優れる。

## § 用 途

家具および住宅室内木質材全般

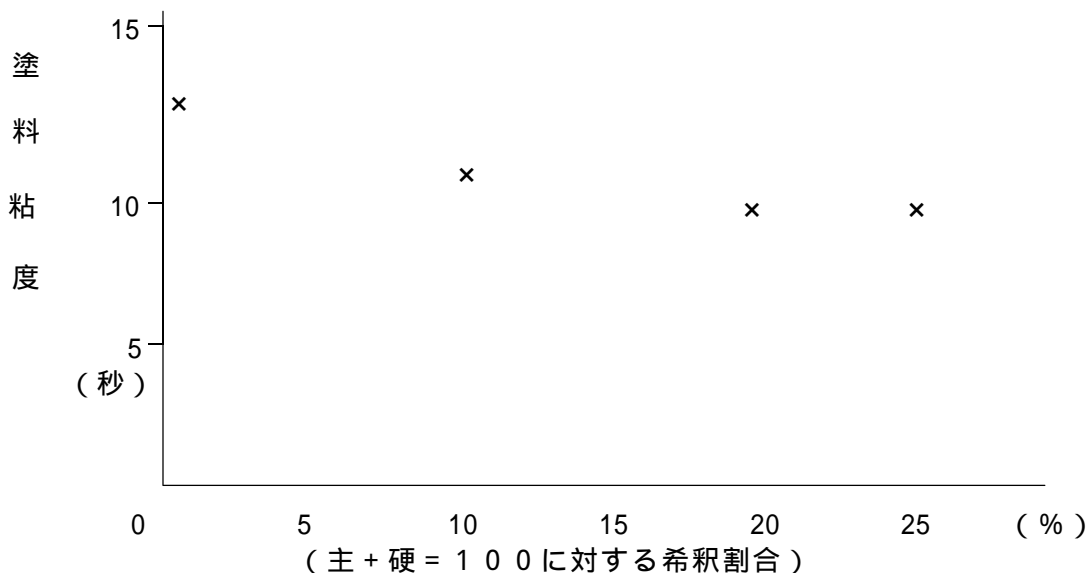
## § 使用 方法

本品は、2液型であり使用前に必ず缶を逆さまにして良く振ったのち、主剤と硬化剤とを1:1で調合し、充分攪拌して下さい。尚、調合したものは可使用時間に制限がありますので、必要量をその都度調合し、残った塗料又は、調合後時間の経った塗料は、廃棄し使用しないでください。

### 1. 調 合 割 合 (重量比)

Non-TX ウレタン サンディングシーラー 主剤	100
Non-TX ウレタン サンディングシーラー 硬化剤	100
Non-TX ウレタン うすめ液	0 ~ 50

### 2. Non-TX ウレタン うすめ液での希釈による塗料粘度 (20 IHSカップ)



### 3. 可使時間 (調合後から使用不可までの時間)

室温 22 において 3~4時間 (うすめ液で30%希釈した場合)

### 4. 研磨可能時間

主剤 / 硬化剤 / うすめ液 = 100 / 100 / 30 (室温 22 )

10	15	20	25	30
- - -	3時間	2.5時間	2時間	1.5時間

### 5. 乾燥性

室温 21 73%RH 125 $\mu$  ガラス板へ塗布

	乾燥時間
指触	10分
指圧	40分

### 6. 標準塗装工程 (住宅内装木質材)

工程	使用塗料	配合	塗布量	備考
素地調整	サンドペーパーにて表面の粗れ、汚れを取り除き、ウエス等にて除塵する。			P-150を使用する。
着色	アレックス 3000 ホア-STEIN 水道水	100 0~100	60ml/m <sup>2</sup>	色濃度を水にて調整し塗布。 室温で1時間以上乾燥。
中塗り	Non-TXウルタン サンデングシーラー-主剤 Non-TXウルタン サンデングシーラー-硬化剤 Non-TXウルタン うすめ液	100 100 0~30	80~100 ml/m <sup>2</sup>	極端な厚塗りはせず、たれ・ タマリに注意する。 室温で3時間以上乾燥。
研磨	サンドペーパー P-220~320にて研磨、除塵			
上塗り	Non-TXウルタン つやあり(艶消し)主剤 Non-TXウルタン 硬化剤 Non-TXウルタン うすめ液	100 100 0~30	80~100 ml/m <sup>2</sup>	極端な厚塗りはせず、たれ・ タマリに注意し均一に塗布する。 室温で3時間以上乾燥。

塗装する素材や塗装器具により塗布量は変わります。  
塗装乾燥後は換気を充分に行ってください。

## § 使用上の注意事項

1. 本品は、主剤に対して専用の硬化剤を使用するようセットになっています。したがって品名の違うものとの組み合わせ、ブレンドはしないで下さい。(上塗り用とサンデングの硬化剤は異なります。)
2. 本品は、2液硬化型塗料です。したがって、主剤と硬化剤の調合は決められた比率で行って下さい。調合バランスが崩れると正規の塗料性能がでないことがあります。また、主剤には研磨剤(粉体)が添加されていますのでご使用前に、必ず良く容器を振って中身を均一に混ぜてから調合を行って下さい。
3. 本品は、PRTR対象化学物質は含んでいませんが、溶剤系塗料であり作業中の換気、火気等に注意して行って下さい。
4. うすめ液は、通常のウレタンシンナーを用いても構いませんが、本品がエコタイプであり、うすめ液も「ワシン Non-TX ウレタン うすめ液」のご使用をお勧めします。
5. 硬化剤は、湿気と敏感に反応しますのでご使用後は必ず密栓をして下さい。白く濁ったり、粘度の高くなったものは使用しないで下さい。
6. 調合後の塗料は、徐々に反応が進み、増粘 ゲルを起こします。可使時間内に使い切るようにして下さい。
7. ウレタンの反応は、温度、湿度等条件によって変わってきます。したがって、塗膜の乾燥状態を確認したうえで次工程に移ることが大事です。また、5 以下ではウレタン反応が進まず乾燥不良になりますのでご注意下さい。また、高温多湿時には白化現象(ブラッシング)を起こすことがあります。その際には、「ウレタン リターダー」を添加し対処して下さい。
8. 下地塗料によっては、ハジキ、ハクリ、白化・変色等が生じる場合がありますので、下地塗料を確認してから塗装を行って下さい。
9. 塗装時、塗料のタレ、コボシにより周囲のものへ付着した場合、シミ、あとが残ることがありますのでご注意下さい。
10. 廃棄塗料および容器は、定められた方法により処理して下さい。

更に詳細な内容が必要な場合には、安全データシート(SDS)をご参照下さい。